

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2018年度 助成者)

作成日 2018年 8月 24日

氏名 (フリガナ)	糸数昌史 (イトカズマサフミ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2018年8月13日 (月) ~ 8月18日 (土)
大学名	東京大学
学年	5年

この度のプログラムを通して得られたものは数多いですが私にとってその中で最も大切なものは、多くの先生がたの情熱に感化され、海外への志を持つ医学生と将来の夢について語り合ったことで、海外でのキャリア展望の希望が自分の中で大きく広がったことだと確信しています。今回お会いできた各先生がたは憧れの存在であり、目指すべきロールモデルとして拠り所になる方々でした。

現在ハワイで働かれている日本人医師の方々からは **Lecture** や直接お話する機会を通じて、先生のご経験、どのようにして海外に飛び立ったのか、海外での苦い経験を聞く機会がありました。どの先生のお話も貴重でためになるものでしたが、特に印象に残ったのは小林先生のお話でした。先生自身の体験を踏まえ、海外で医師として働くことがどのようなものかを話してくださいました。先生がアメリカで働いた最初の日のこと、海外では **Case Presentation** の出来が重視されること、アメリカ社会や医療保険制度改革オバマケアの本質について熱心にご指導いただいたことは大変有意義でした。そして小林先生の教育にける矜持やその他の分野でも幅広くご活躍する姿は、自分にとってこれまで以上に様々な分野に挑戦していきたいという力強い励みになりました。

今回の研修全体を通して **History Taking** および **Case Presentation** を徹底的にトレーニングして、最終日にはどちらもスラスラと淀みなく行えるようになったことも大きな成果でした。実際のところ日本にいてもトレーニングすればそれらの能力はある程度伸ばせるとは思いますが、この研修環境での量と質には遠く及ばないでしょう。三日間、朝と晩に **History Taking** と **Case Presentation** のレクチャー、**Workshop**、実践があり、丁寧に時間をかけて学ぶことができました。**History Taking** では模擬患者として多くのハワイ大医学生が参加していたのでネイティブに対しての問診に近いものでした。そして問診内容からアセスメント、鑑別疾患を考えて **Case Presentation** を行うのですが、医師と一対一なのでフィードバックとして臨床推論の改善点や訊くべきだった質問、医療英語の間違いを指摘していただきました。初めは拙い **Case Presentation** でしたが、レクチャーの内容やアドバイスを踏まえて次回の **History Taking** と **Case Presentation** を改善するというサイクルを何度も繰り返すことで、次第に型が身につき、**Case Presentation** の出来が向上していくのを実感できました。同時に医学英語の実力も自然と伸びていきました。今後プログラムに参加する人は事前準備として解剖、症状、病名、問診について基本的な医学英語を勉強しておくことに加えて、UpToDateの「Major causes of musculoskeletal chest pain in adults」のような鑑別疾患に役立つ項目を読むようになっておくと良いでしょう。

プログラムの期間は6日間と限られた日程でしたが、学びが多く非常に密度の濃い6日間でした。今回得られた体験や学び、人とのつながりを今後のキャリアの中で活かしていこうと思います。最後に留学助成していただいた日米医学医療交流財団、ハワイ現地の先生やスタッフの方々、日本の先生やスタッフの方々に感謝申し上げます。